

事後調査の結果

調 査 項 目 大気質（工事の施行中）

予測した事項 イ．建設機械の稼働に係る粉じん等

1. 予測した事項及び予測条件の状況

(1) 調査事項

予測した事項の調査事項は、建設機械の稼働に係る粉じん等（降下ばいじん）とした。また、予測条件の状況の調査事項は、建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）とした。

(2) 調査地域

調査地域は、環境影響評価書における建設機械の稼働に係る粉じん等の予測地域のうち北品川非常口・目黒川変電所及び小野路非常口とした。

(3) 調査手法

① 調査時点及び期間

調査時点及び期間は、建設機械の稼働による影響が最大となる時期とし、各調査地点において建設機械の稼働に係る粉じん等の排出量が最大になると想定される 1 年間の四季（各 1 か月間）とし、表 1-2-1 の調査期間中に実施した。

表 1-2-1 調査期間等

地点番号	区市名	所在地	計画施設	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容
02	品川区	北品川	非常口、変電所	秋季	平成 29 年 10 月 25 日～11 月 24 日	掘削工、地中連続壁工 等
				冬季	平成 30 年 1 月 22 日～2 月 21 日	掘削工、地中連続壁工 等
				春季	平成 30 年 3 月 23 日～4 月 23 日	掘削工、構築工の準備工 等
				夏季	平成 30 年 6 月 1 日～7 月 2 日	掘削工、構築工の準備工 等
05	町田市	小野路町	非常口	春季	平成 29 年 4 月 17 日～5 月 23 日 ^{注1}	準備工(ヤード造成工)、ニューマチックケーン工 等
				夏季	平成 29 年 7 月 5 日～8 月 5 日	準備工(ヤード造成工)、ニューマチックケーン工 等
				秋季	平成 29 年 10 月 17 日～11 月 20 日 ^{注2}	準備工(ヤード造成工)、ニューマチックケーン工 等
				冬季	平成 30 年 1 月 16 日～2 月 15 日	準備工(ヤード造成工)、ニューマチックケーン工 等

注 1 ゴールデンウィーク期間（平成 29 年 5 月 3～7 日）を休工としたため、調査を一時休止した。

注 2 台風接近（平成 29 年 10 月 22～23 日）に伴い休工としたため、調査を一時休止した。

② 調査地点

予測した事項の調査地点は、環境影響評価書における建設機械の稼働に係る粉じん等の予測地点を基本とし、住居等の分布状況を考慮したうえで、工事範囲外で最大の濃度となる地点及び直近の住居等を基本とした。また、調査高さは地上から 1.5m とした。調査地点を、図 1-2-1 に示す。

予測条件の状況の調査地点は、図 1-2-1 における工事範囲内とした。

③ 調査方法

調査方法は、「衛生試験法・注解（2015）」（2015 年、日本薬学会）に基づくダストジャー法、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。

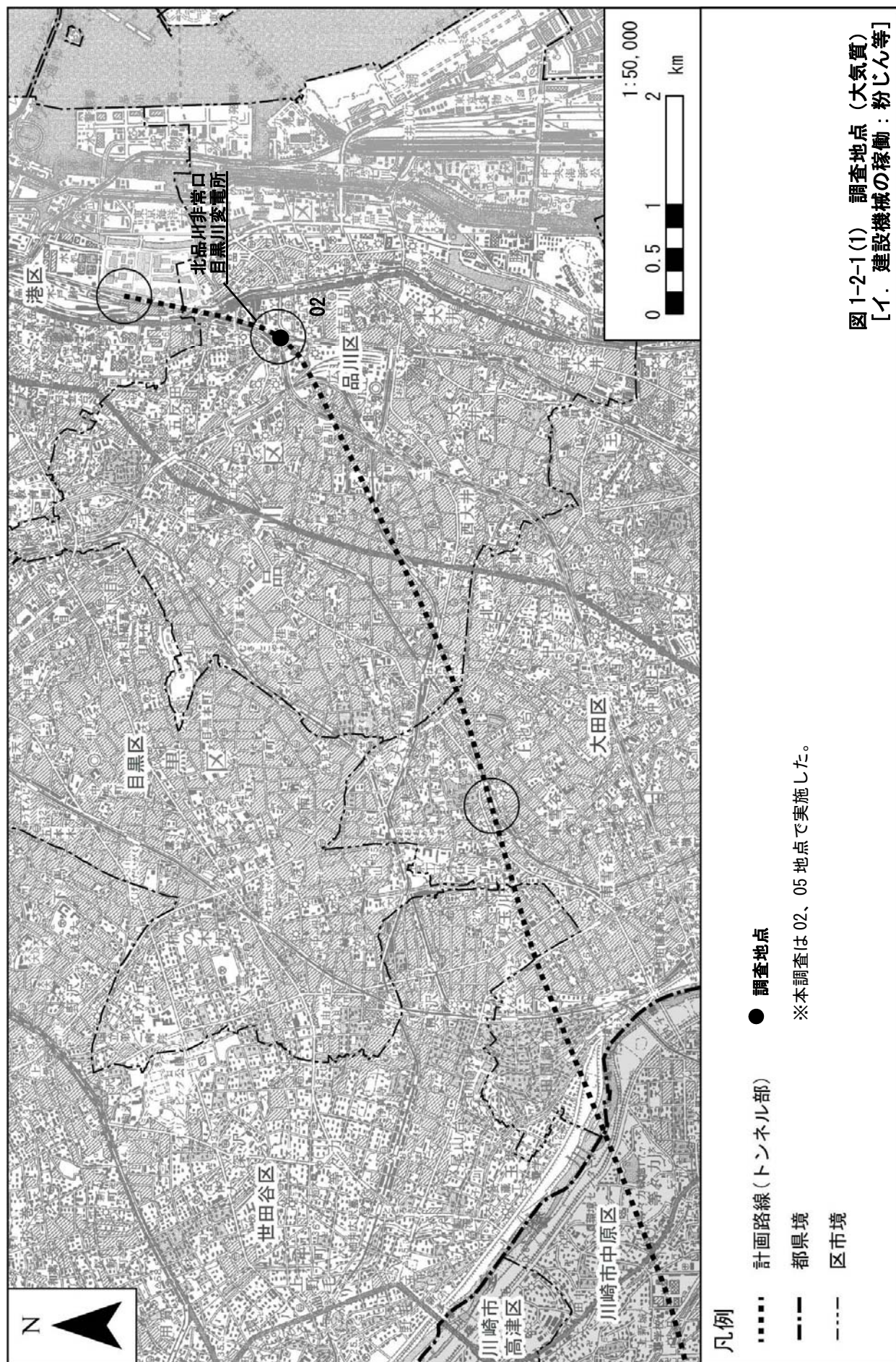
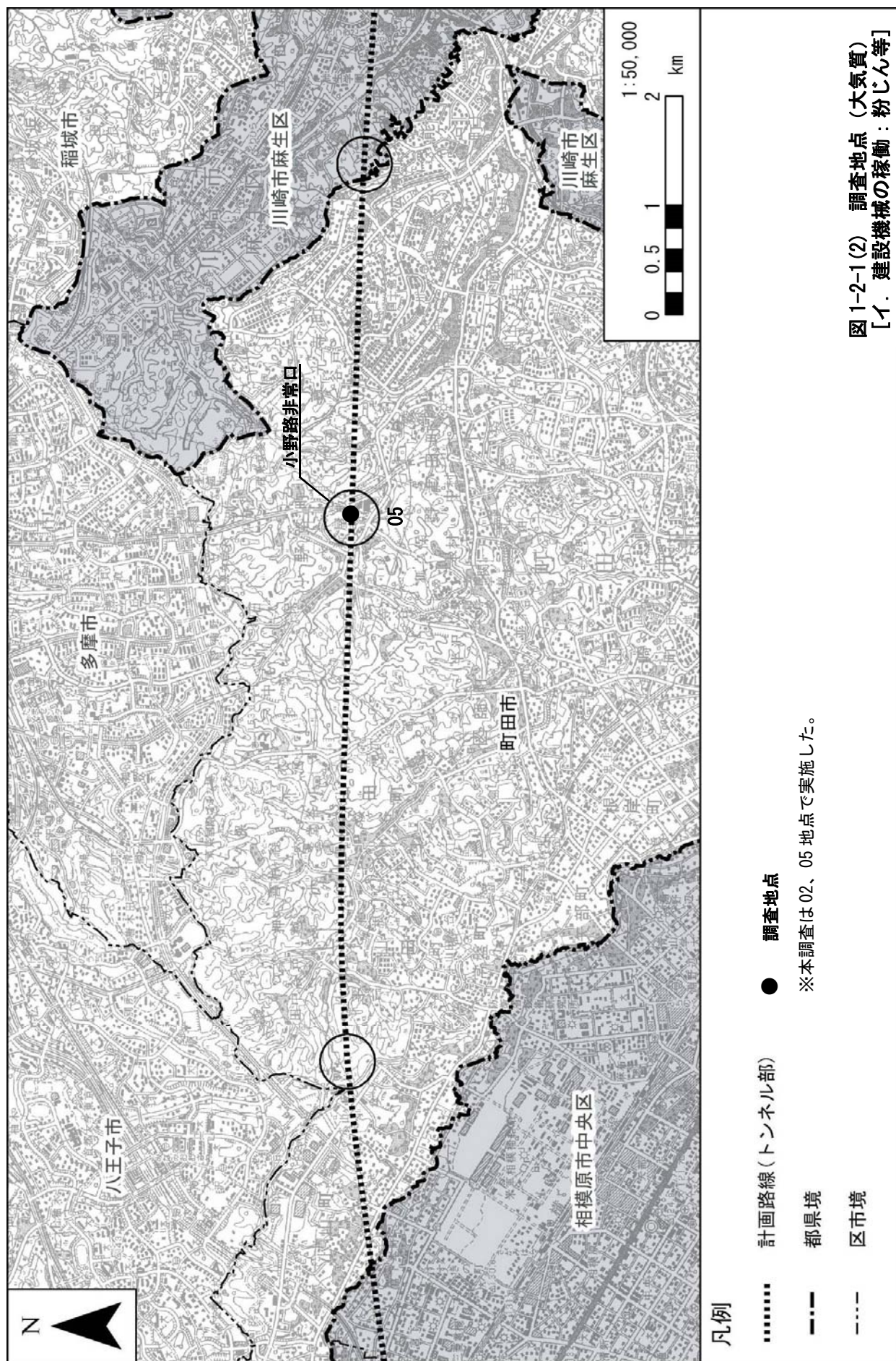


図1-2-1(1) 調査地点(大気質)
[イ. 建設機械の稼働: 粉じん等]



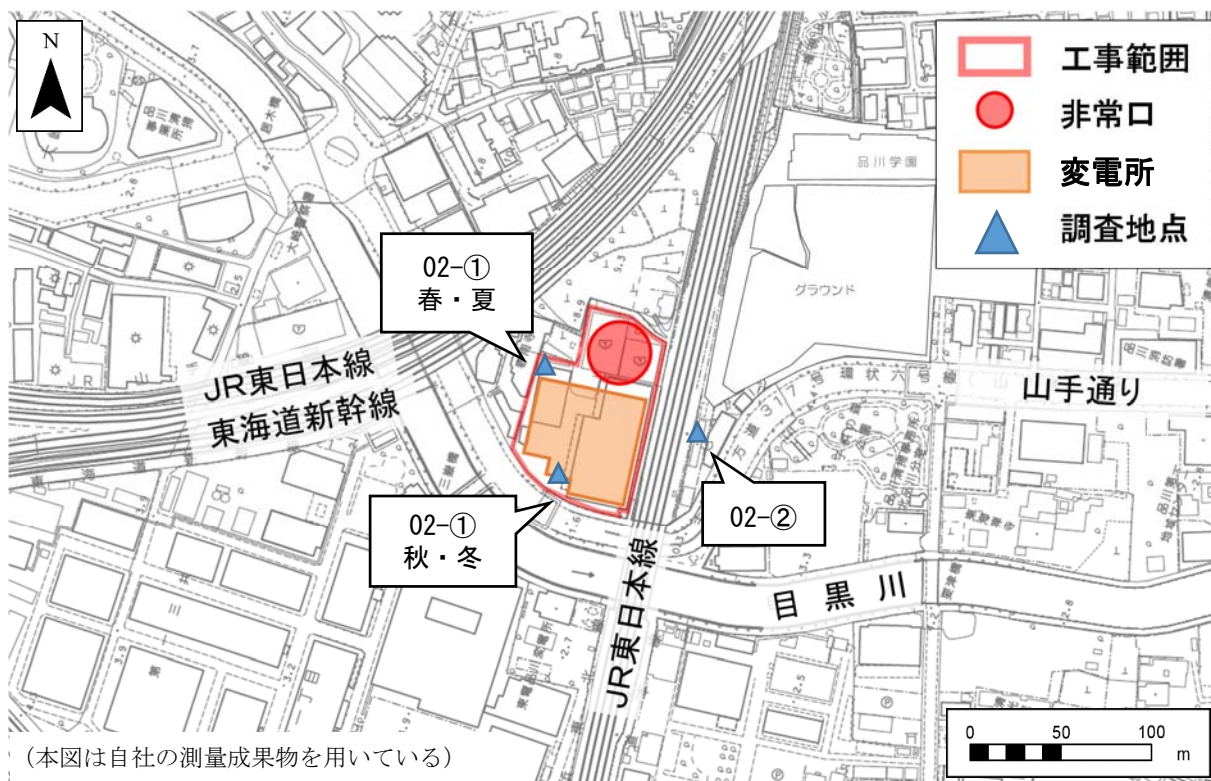


図 1-2-1 (3) 02 調査地点 (北品川非常口・目黒川変電所)

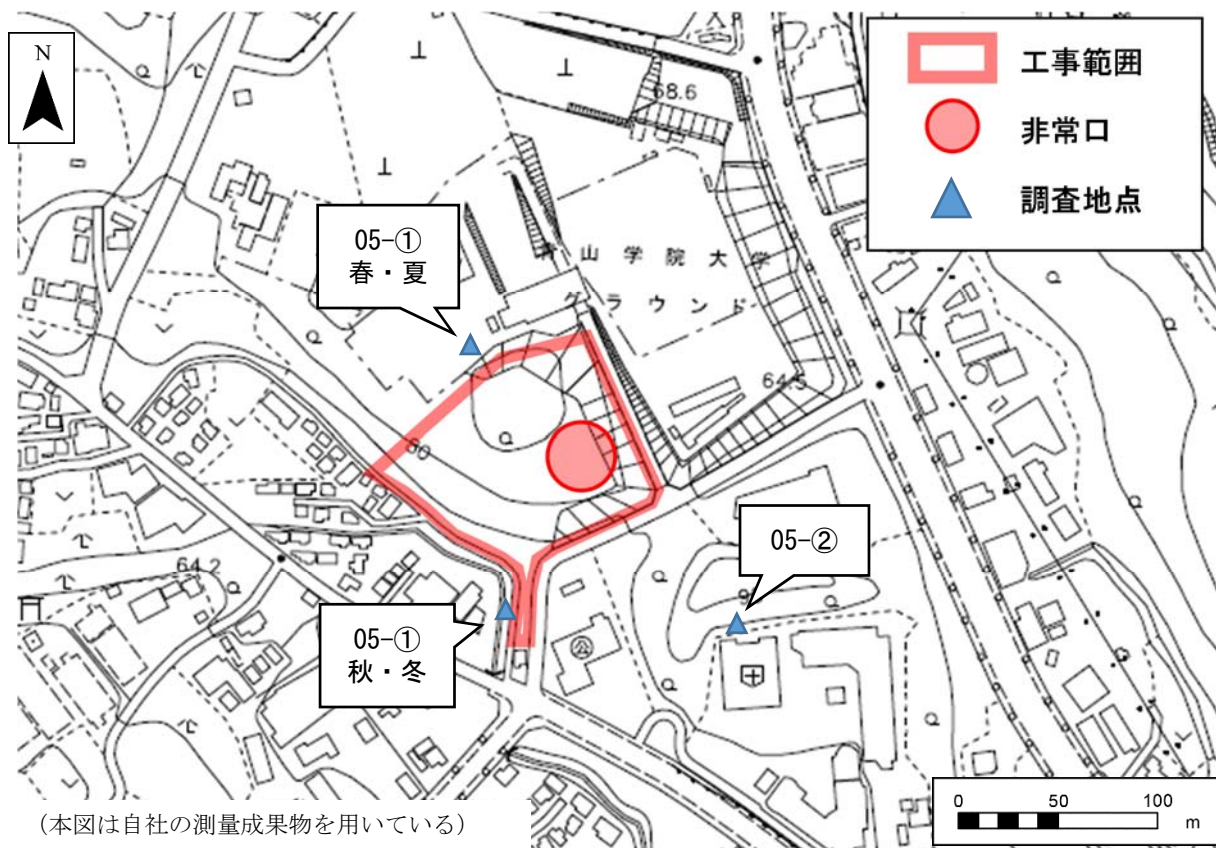


図 1-2-1 (4) 05 調査地点 (小野路非常口)

2. 環境保全措置の実施状況

(1) 調査事項

調査事項は、環境保全措置の実施状況とした。

(2) 調査地域

調査地域は、環境影響評価書における建設機械の稼働に係る粉じん等の予測地域のうち、品川駅、北品川非常口・目黒川変電所、東雪谷非常口、小野路非常口及び上小山田非常口とした。

なお、品川駅、東雪谷非常口及び上小山田非常口については、建設機械の稼働による影響が最大となる時期ではないため、「1. 予測した事項及び予測条件の状況」の調査については実施していない。

(3) 調査手法

① 調査時点及び期間

調査時点及び期間は、表 1-2-2 に示す調査期間中の適時とした。

表 1-2-2 調査期間等（環境保全措置）

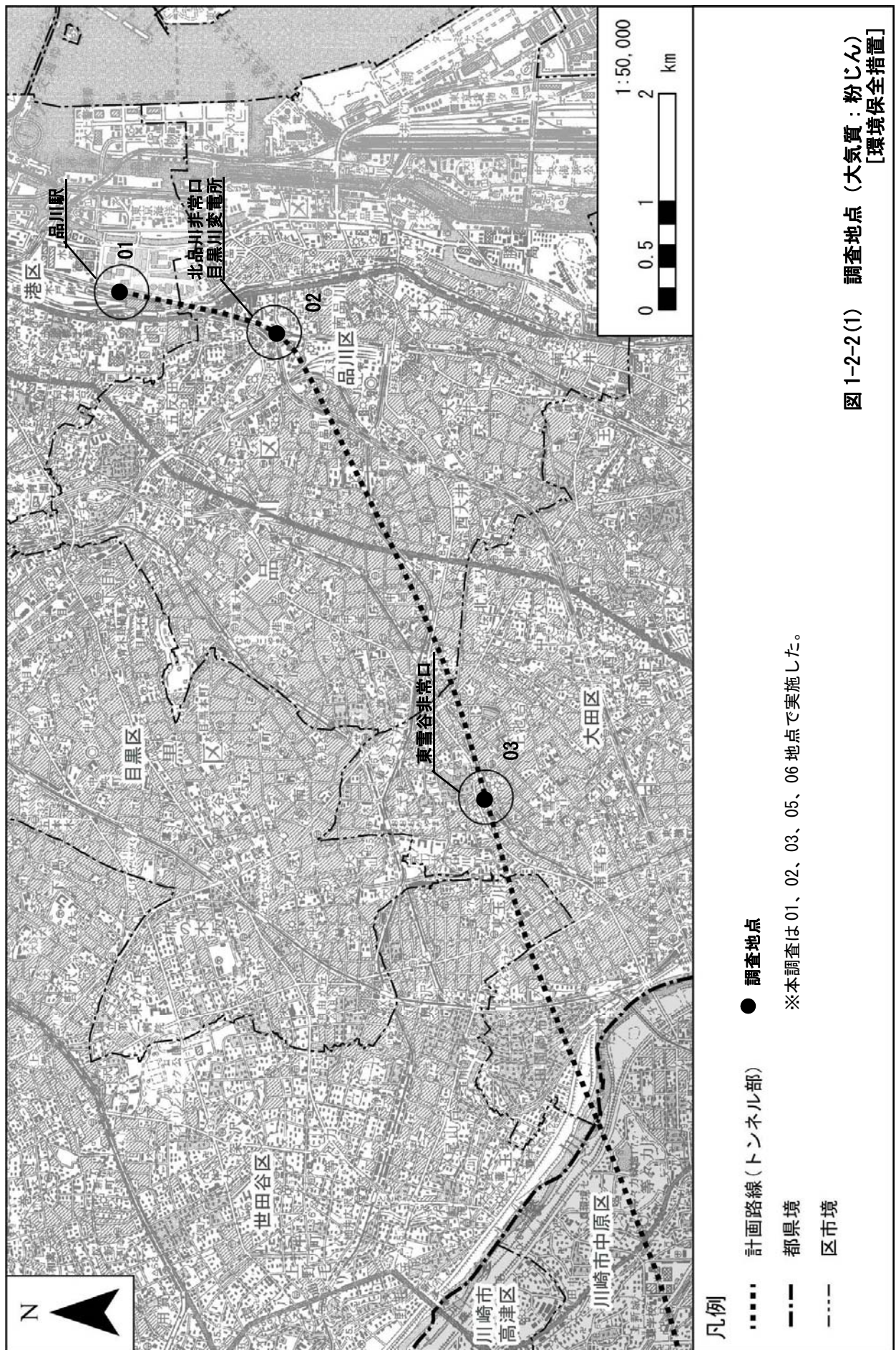
地点番号	区市名	所在地	計画施設	調査期間	調査期間中の主な工事内容
01	港区	港南	地下駅	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	掘削・支保工の準備工、 仮受工 等
02	品川区	北品川	非常口、 変電所	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	地中連続壁工、 掘削工、 構築工 等
03	大田区	東雪谷	非常口	平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月	準備工(ヤード整備工、 仮土留め工) 等
05	町田市	小野路町	非常口	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	準備工(ヤード造成工)、 ニューマチックケトン工 等
06		上小山田町	非常口	平成 30 年 11 月～平成 31 年 3 月	準備工(ヤード造成工) 等

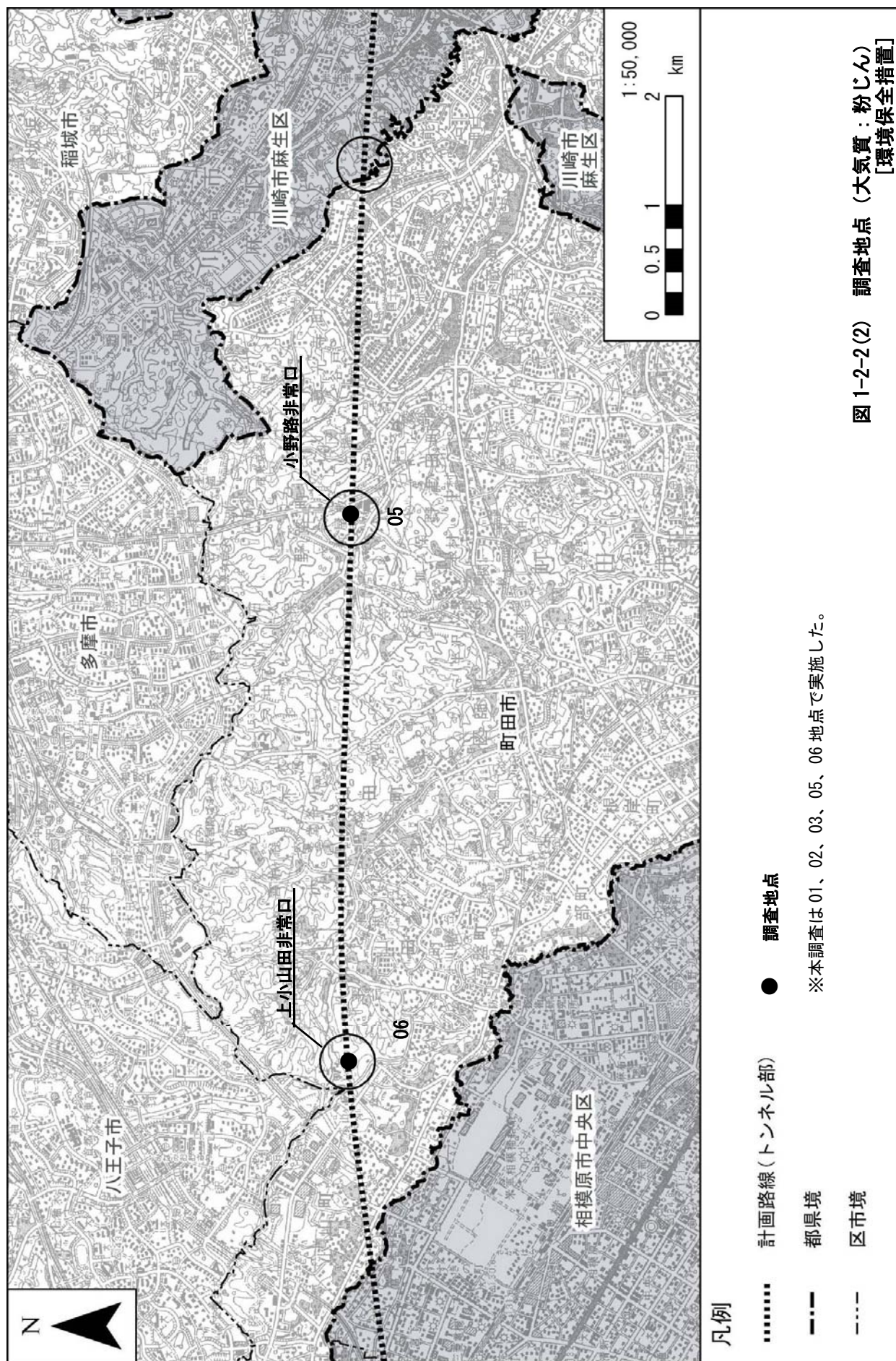
② 調査地点

調査地点を、図 1-2-2 に示す。

③ 調査方法

調査方法は、現地確認及び工事関係等の資料の整理とした。





3. 調査結果

(1) 事後調査の結果の内容

① 予測した事項

調査結果を、表 1-2-3 に示す。

北品川非常口・目黒川変電所における降下ばいじん量は、年間（四季）を通じて最大 4.8t/km²/月であり、指標値を下回っていた。

小野路非常口における降下ばいじん量は、年間（四季）を通じて最大 4.1t/km²/月であり、指標値を下回っていた。

表 1-2-3 調査結果（降下ばいじん量） 注1

地点 番号	調査地点	春季	夏季	秋季	冬季	指標値 ^{注2}
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
02	02-①	4.8	4.6	3.1	3.5	20t/km ² /月
	02-②	1.7	2.2	1.4	1.7	
05	05-①	2.1	4.1	0.9	1.7	
	05-②	1.5	1.5	0.8	1.1	

注1 調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

注2 環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安として、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日環大自84号））を、指標値とする。

なお、環境影響評価書では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、基準等の参考値とした。

② 予測条件の状況

建設機械の稼働状況を、表 1-2-4 及び図 1-2-3 に示す。なお、図 1-2-3 の重機稼働図は各四季の代表的な一日の状況である。

表 1-2-4 建設機械の稼働状況

地点 番号	季節	調査期間	調査期間中の 主な工事内容	主な建設機械			
				種類	台数 (台/日)	規格	稼働 時間
02	秋季	平成 29 年 10 月 25 日 ～11 月 24 日	掘削工、 地中連続壁工 等	①バックホウ ②バックホウ ③クローラークレーン ④クローラークレーン ⑤クローラークレーン	4 台 2 台 1 台 2 台 1 台	0.45m ³ 0.7m ³ 8t 90t 150t	8:30～ 18:00
	冬季	平成 30 年 1 月 22 日 ～2 月 21 日	掘削工、 地中連続壁工 等	①バックホウ ②バックホウ ③クローラークレーン ④クローラークレーン ⑤クローラークレーン ⑥クローラークレーン ⑦高所作業車 ⑧発電機	3 台 5 台 1 台 1 台 1 台 3 台 3 台 2 台	0.45m ³ 0.7m ³ 4.9t 8t 90t 150t 12m 46kVA	7:00～ 18:00、 20:00～ 6:00
	春季	平成 30 年 3 月 23 日 ～4 月 23 日	掘削工、 構築工の準備工 等	①バックホウ ②クローラークレーン ③クローラークレーン ④単軸アースオーガ ⑤高所作業車 ⑥発電機 ⑦コンプレッサー	8 台 2 台 2 台 2 台 4 台 4 台 2 台	0.7m ³ 55t 150t 45kw 12m 37kVA 5.0m ³	7:00～ 19:00、 20:00～ 5:00
	夏季	平成 30 年 6 月 1 日～ 7 月 2 日	掘削工、 構築工の準備工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④クローラークレーン ⑤クローラークレーン ⑥クローラー式アースオーガ ⑦発電機 ⑧コンプレッサー	1 台 3 台 2 台 1 台 2 台 1 台 2 台 1 台	0.2m ³ 0.45m ³ 0.7m ³ 70t 150t 150kw 37kVA 5.0m ³	8:30～ 18:00
05	春季	平成 29 年 4 月 17 日 ～5 月 23 日	準備工(ヤード造成 工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④ラフタークレーン	1 台 1 台 3 台 1 台	0.13m ³ 0.28m ³ 0.8m ³ 25t	8:00～ 17:00
	夏季	平成 29 年 7 月 5 日～ 8 月 5 日	準備工(ヤード造成 工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④クローラークレーン ⑤ラフタークレーン ⑥ラフタークレーン ⑦サイレントパワー	1 台 3 台 2 台 1 台 1 台 2 台 1 台	0.15m ³ 0.45m ³ 0.8m ³ 25t 70t 100t 800kN	8:00～ 17:00
	秋季	平成 29 年 10 月 17 日 ～11 月 20 日	準備工(ヤード造成 工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②バックホウ ③バックホウ ④クローラークレーン ⑤高所作業車	1 台 1 台 4 台 2 台 1 台	0.15m ³ 0.45m ³ 0.8m ³ 25t 9.9m	7:30～ 17:00
	冬季	平成 30 年 1 月 16 日 ～2 月 15 日	準備工(ヤード造成 工)、 ニューマチックケーソン工 等	①バックホウ ②クローラークレーン ③クローラークレーン ④ラフタークレーン ⑤高所作業車 ⑥スリッパ	3 台 1 台 1 台 2 台 1 台 1 台	0.8m ³ 4.9 t 120t 25t 9.9m 0.28m ³	8:00～ 24:00